

RPJ News

2025 年 12 月号

特定非営利活動法人(NPO法人)

精神保健福祉交流促進協会 Refresh Project

〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋2-17-7-801

毎月1回発行

発行責任者：志井田美幸 / 長野敏宏 / 仁木守

E-mail ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp

ホームページ <http://www2.ttcn.ne.jp/ref-pj/>

内 容

* 2025 年を振り返って

協会理事 白石 弘巳

* 今年を振り返って

協会実行委員 株式会社つがるねっと 代表 貴田岡 武

* 今年を振り返って

協会実行委員 エスポアール出雲クリニック 形部 周平

* イギリスにおけるリカバリー研修ツアーの報告(13)

○ ケンブリッジ最後の講義について

シェパード先生

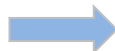
○ 早期介入チームにおける個別配置と支援(IPS)の実施

マイルスさん

* 事務局からのお知らせ

メンタルヘルスとウエルフェア第9号発刊しました。

今年も一年ご愛読いただき
有り難うございました。
来年も宜しくお願い申し上げます。
精神保健福祉交流促進協会



2026 年



* 2025 年を振り返って

協会理事 白石 弘巳

70 歳を超えたことを機に、意識して少しずつ活動を減らしてきています。昨年は、精神保健福祉学会副会長や(一社)ジャパンファミリーワークプロジェクト代表理事を降り、今年は、精神科救急学会(編集委員)、社会福祉法人理事長、就労支援区分認定審査会委員、メンタルケア協議会理事、医師会夜間診療所勤務などから身を引きました。

今年大きかったこととして、これまで先延ばしにしてきた老齢年金を秋からいただきはじめました。まあ、それでも週 6 日どこかで外来診療を行い、呼びがかかれば講演会でお話もさせていただいております。放送大学や看護などの教科書の改訂版の執筆もありがたくお受けしました。ただ、その際、いつも、これが最後になるかもしれないということが頭をよぎり、悔いを残さないように最善を尽くしたいという気持ちが強くなってきました。

ときどき、「あとの人生はおまけ」と言うことがある一方で、毎日スマホを使ったり、スイカで改札口を通ったりしながら、このような「奇跡」を可能にしている科学技術について無知のままこの世からいなくなるのは嫌だなと思ったりもします。「おまけ」で行うべき何かは、やはり自分がこれまでやってきた活動の延長上にあるのだらうと思いつつ、脳トレなどで時間をつぶしていた 2025 年でした。来年の抱負は、改めて次号で書きます。

*** 今年を振り返って**

協会実行委員 株式会社つがるねっと 代表 貴田岡 武

みなさんこんにちは、青森県弘前市の株式会社つがるねっと代表の貴田岡です。今年は慌ただしい1年でしたが、なんとか無事に事業を継続できてほっとしています。

就労継続支援の行っているお仕事は変わらず、津軽お化け珈琲や津軽塗等の地域とのつながりをふまえた事業、ミニトマト栽培やりんごなどの農福連携事業、その他町のイベント参加や毎日のお掃除やご飯作りの作業。その中で小さな一步一步ですが、みんなが経験やつながりのもと、その場その場での役割を持ち、私達らしく町とつながりながら共生社会に向けた関わりができたのではないかと思います。今年もたくさんの方にお世話になりました。本当にみなさまありがとうございました。

地震により困難な状況にある地域の皆さまに心よりねぎらいを申し上げ、安心が一日も早く戻ることを願っています。

*** 今年を振り返って**

協会実行委員 エスポアール出雲クリニック 形部 周平

エスポアール出雲クリニックが合同会社エスポアールファームを設立し椎茸栽培もようやく今年で3年目を迎えました。この一年を振り返ると、これまでに比べ栽培や作業面において僅かずつ手応えを感じながらも、近年続く夏の高温の長期化や物価物流費の高騰等、農家にとって厳しい一年となりました。

また、エスポアールファームのもう一つの事業にヘラクレスオオカブトの飼育がありますが、これも別チームが一進一退を繰り返しながら地道に活動を続けています。

我々が目指す『障がいの有無に関係なく誰もが働きやすい職場づくり』への道程はまだまだ遠く感じています。諦めなければどんな失敗も回り道も成功への途中なのだと自分を奮い立たせ、また来年も一つ一つ一生懸命に頑張ります。

*** イギリスにおけるリカバリー研修の報告(13)**

○ ケンブリッジ最後の講義について

シェパード先生

お疲れ様でした。これから最後の講義になります。

今回お話し頂いたマイルスさんは私の良き友人です。彼は南西ロンドンとセントジョージ・メンタルヘルスNHSトラストというところで働いています。今迄の話の中で、ノッチンガムとケンブリッジのトラストが出てきましたが、彼のところはロンドンにある1つのトラストです。そしてロンドンには32の州があり、その内の5州をカバーしており対象人口は100万人です。

彼は組織のリカバリー担当部長で、社会が障がい者を受け入れていくことを推進しています。そしてマイルスさんはイギリスにおいて、精神障がい者の雇用について特に若者の雇用についての早期介入サービスとリカバリーに関することの2つで大変有名な方です。

ノッチンガム・ケンブリッジ・南西ロンドンのリカバリーを今回学んいただきましたが、これはとても素晴らしい事だと思います。

それではもう一度マイルスさんにお話し頂きましょう。

○ 早期介入チームにおける個別配置と支援 (IPS) の実施

マイルスさん

(マイルス) 皆さんが今迄学んできたことに対し、私の話が更に強化することになるようお願いしています。そして少しでも興味を持っていただけると嬉しいです。

初めて精神病を発病した若者の雇用についてお話ししたいと思います。特に特別なテクノロジーについてお話ししたいと思います。それは早期介入チームによって行われる個別就労支援についてです。

精神疾患を持った若者が仕事に就くという事は、イギリスにおいても国際的にみても、これから考えていかななくてはならない内容なのです。

先ず「CAMEO」チームについてお話しします。

「CAMEO」は早期介入チームで 2007 年に設置されました。対象者は 14 歳から 35 歳までの、初めて精神障がいを発症した方たちです。私の意見ではこの早期介入チームが、イングランドにおいて最も新しい試みと考えています。

この試みのどこが重要なのかというと、職業や学業に復帰するためには早期介入が大変重要だという事を、保健省が認めたという事なのです。

この様な個別の事象に保健省が焦点を当てるという事は珍しいことで、今まで無かったことなのです。

実は仕事に復帰するという事は精神保健の仕事では無かったのです。その様な意味でもこのサービスは非常にユニークだともいえます。

色々なリサーチの結果を国際的に検討してみると、精神病を患うと仕事を失う、教育を失うという結果に繋がっています。

そして精神病にかかった経験は、若者のアイデンティティにとつてとても大きな意味を持ちます。成人に成長するにあたり、学校を卒業して就職をするという事に対して非常に大きなインパクトを持ちます。

オーストラリアでは興味深いことに 2 人のリサーチャーが、データを検討しました。その結果、統合失調症を経験した人が仕事を持つかどうかという事は、教育を完了したかどうかという事なのです。精神疾患を始めて発症された方は普通教育の機会を無くしてしまうのです。

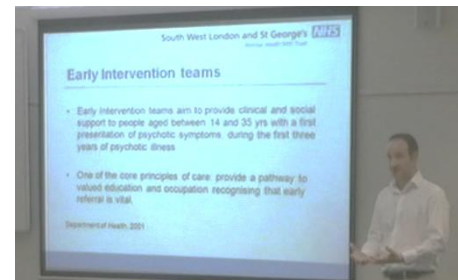
それではエンプロイメントの成果という事を考えてみます。

初めて発症した患者さんのケースを見てみましょう。イギリス全体のケースを見てみると、精神疾患を発症することによって就業率は劇的に低下します。例えばバーミンガムで若者がサービスと繋がりを持ったとき 52% が就業していましたが 1 年後には半分の 25% に減少しております。これは 1992 年の調査です。でもデータのように



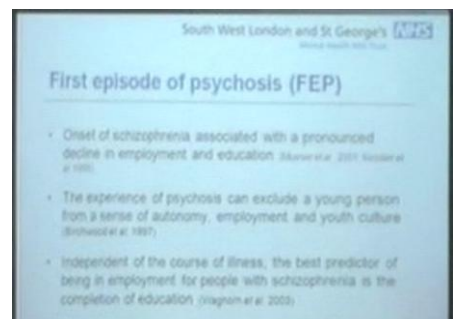
早期介入チームにおける個別配置と支援 (IPS) の実施

マイルス・リナルディ
回復・社会的包摂担当責任者



早期介入チーム

- ・早期介入チームは、精神病症状を初めて呈した 14 歳から 35 歳までの人々に、精神病発症後 3 年間にわたり、臨床的および社会的支援を提供します。
- ・ケアの原則の一つは、早期介入が不可欠であることを認識し、価値ある教育と職業への道筋を提供することです。

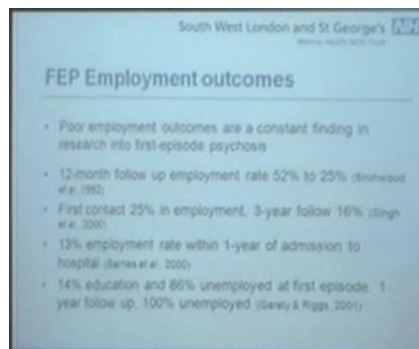


精神病の初回エピソード (FEP)

- ・精神分裂病の発症は、雇用と教育の顕著な低下と関連している。
- ・精神分裂病の経験は、若者を経済、雇用、そして若者文化から排除する可能性がある。
- ・病気の経過とは無関係に、精神分裂病患者にとって就労の最良の予測因子は、教育の完了である。

に 2000 年 2001 年の調査でもその傾向は変わっておりません。でもこの間にも彼らは精神保健サービスとコンタクトを続けているのです。

つづく

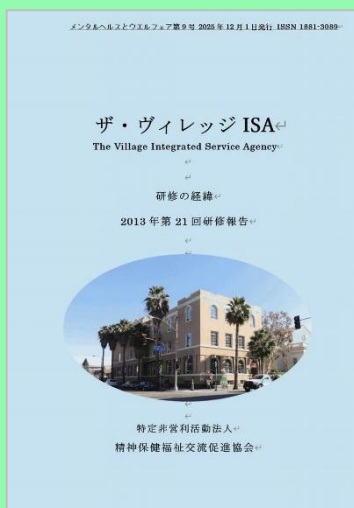


FEP の就労転帰

- ・初回エピソード精神病に関する研究では、就労転帰の不良が常に見られる所見である。
- ・12 ヶ月追跡調査後の就労率は 52% から 25% (1992 年)
- ・初回接触時の就労率は 25%、3 年間の追跡調査では 16% (2000 年)
- ・入院後 1 年以内の就労率は 13% (2000 年)
- ・初回エピソード時の就労率は 14%、失業率は 86%、1 年間の追跡調査では 100% (2001 年)

* 事務局からのお知らせ

メンタルヘルスとウェルフェア第 9 号発刊しました。



目次	
題 目	ページ
発行に際し	5
ヴィレッジ研修の経緯	7
ヴィレッジ研修の経緯	9
初めて体験した「第 1 回ヴィレッジセミナーツアー」	10
きっかけは研修センターでの研修	12
ヴィレッジセミナーツアーの担当を引けた者としての使命	15
国産写真	19
ヴィレッジの外観と主要な皆さま	20
2013 年第 21 回研修報告	25
概要	27
1.歴史と使命	27
2.プログラムと組織	37
3.メンバーの話	45
4.就労	53
5.精神科医の役割	65
6.成果と結果	77
7.論議	93
8.ケースマネジメントと PSC の役割	105
9.地域社会統合	117
10.ウェルネスセンター訪問	129
11.自助活動組織訪問	137
12.松島さん宅訪問	145
編集後記	154

メンタルヘルスとウェルフェア 第 9 号

ザ・ヴィレッジ ISA

研修の経緯

2013 年第 21 回研修報告

サイズ: A5

ページ数: 154 頁

定価: 2,000 円 (税込み)

※本号は、本紙 2023 年 3 月号から 2024 年 3 月号まで掲載しました研修報告を中心に、研修の経緯や写真等を追加して書籍化させて頂きました。

ヴィレッジセミナーは故谷中輝雄初代理事長がやどかりの里時代の 1995 年に始めたもので、2002 年第 9 回より我々精神保健福祉交流促進協会が引き継ぎ運営し、2013 年第 21 回を持って終了となりました。

そして本書は、最終回となった第 21 回研修を忠実に文章化したものです。

精神保健の書として、またヴィレッジの記録書としてご覧いただけると幸いです。

ご希望の方はメール (ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp) にてお申し込みください。

代金 (送料込み ¥2,000) は発送時にお知らせする銀行振り込みで、お支払いください。

大変申し訳ございませんが、振込手数料のご負担をお願いします。

ー編集後記ー

今年も残り僅かとなりました。仁木さんのおかげで、レターの発行、またヴィレッジセミナーの書籍化が叶いました。本当にありがとうございます。

改革ビジョンから 20 年、とてももどかしく感じていた日本の精神保健医療改革の歩みですが、振り返ると「着々と進んできている」というのが実感です。この数年以内に、精神科医療の方向性もさらに明確になると思われますし、益々協会が世界各地で学んできたことの重要性が再認識されると考えています。仁木さんが、丁寧に記録、発信し続けて下さっているからこそ、私たちはそれを活かすことができます。さらに振り返りつつ、未来を見据えたいと思います。1 年間、本当にお疲れさまでした。有難うございました。(長野)

特定非営利活動法人 精神保健福祉交流促進協会